

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

平成 24 年 9 月 18 日作成

### 派遣生 基本情報

氏名： 金沢 文緒  
所属先： 美術史学研究室  
派遣形態： 平成 23 年度冬個人派遣・PD

### 研究課題

ザクセン=ポーランド連合と宮廷画家—ベルナルド・ベロットの政治的寓意画の研究—

### 派遣先での活動

#### (1) 派遣先の基本情報

・派遣国・都市

ドイツ（ドレスデン、ミュンヘン）

・利用した研究機関

ザクセン州立・ドレスデン工科大学図書館、ドレスデン国立美術館、ミュンヘン美術史中央研究所

#### (2) 派遣期間

平成 24 年 6 月 26 日～9 月 4 日（71 日間）

### 研究成果

#### (1) 計画概要

ザクセン選帝侯フリードリヒ・アウグスト 2 世（在位 1733-1763 年）は、ドレスデンを首都とするザクセン選帝国を統治したが、その一方で、アウグスト 3 世としてポーランド国王も兼任した。そのため、ドレスデンを活動拠点とする彼の宮廷芸術家たちは、時としてザクセンとは異なる歴史的背景を持つポーランドに向けた作品の制作を委嘱された。本研究では、宮廷画家ベルナルド・ベロットが 1762 年にドレスデンで制作した政治的寓意画の対作品の分析を通して、ザクセン=ポーランド連合の二重統治下における宮廷芸術について考察する。

#### (2) 実際に達成された成果

まず、ドレスデン国立美術館で開催中であったベルナルド・ベロットの展覧会に、本研究が考察対象とする絵画作品 2 点、《倒れたものは再び立ち上がる》と《不滅は困難から生

まれる》が10年数年ぶりに展示された点に触れておきたい。作品を未見であった申請者にとって、長い時間をかけて近距離で実見することができたのは非常に大きな収穫であり、今回現地で調査を進めるにあたって出発点となった。

日本での事前調査により、当時のドレスデンでは政治的寓意を表現した絵画作品の制作が限られていたことがある程度把握できていたため、今回の滞在では絵画以外の媒体の視覚的作品に調査範囲を広げる必要があった。ザクセンとポーランドの宮廷関連の建築物や彫刻、君主の肖像表現を伴う版画なども対象となったが、特に大きな成果が得られたのはドレスデンとワルシャワで製作された記念メダル・硬貨に関する調査であり、この調査にはドレスデン国立美術館メダル収集室保存管理官ヴィルヘルム・ホルスタイン氏らのご助言・ご協力をいただいた。

また、画像分析と並行して、作品の制作背景として想定されるザクセン=ポーランド連合に関する歴史的な文脈についても考察を進めた。一次資料及び二次資料の研究調査にあたっては、主にザクセン州立・ドレスデン工科大学図書館とミュンヘン美術史中央研究所を利用した。

### (3)今後の展望

今回の研究成果を国際的に発信すべく、欧語論文にまとめて学術研究誌に投稿する予定であり、現在その準備を進めている段階である。フリードリヒ・アウグスト 2 世/アウグスト 3 世の治世における宮廷芸術については、これまでドイツとポーランドの研究者を中心にそれぞれ研究が進められてきたが、君主が同時に二つの国を統治する特殊な時代に見られる宮廷芸術の二重性は、それぞれの国の歴史的な文脈の考察や作品分析を比較・統合するという俯瞰的な作業によってのみ明らかになるだろう。本研究では特定の作品の分析を行うためにこのアプローチを用いたが、今後は考察対象を広げ、この問題について体系的に論じていくことを目指す。